

\*\*\*\*\* 児童書編集者座談会 \*\*\*\*\*

「本」は、こうして作られる

——作品，作家との出会いから紙選びまで

〈出席者（敬称略）〉

■板谷ひさ子（岩崎書店）

■小林美香子（小峰書店）

■佐川 知子（偕成社）

■橋口英二郎（童心社）

■山室 秀之（講談社）

司会：西山利佳（本誌編集長）

写真：次良丸忍（日本児童文学者協会事務局）

（日時：2012年7月19日（木）  
場所：日本児童文学者協会事務局）

西山 今日はお暑い中、そして、お仕事でお疲れのところをお集まりいただき本当にありがとうございます。まずは、自己紹介として、お生まれと、子どもの本の編集者になった動機などをお聞かせください。

山室 講談社の山室です。一九六七年生まれです。入社して最初の五年間は週刊誌『フライデー』の編集部にいました。その後、情報誌や分冊百科を担当し、二〇〇五年より児童書の編集に携わっております。雑誌編集では、日々更新される情報や流行を追いかけてきましたが、三十代半ばを過ぎた頃からしっかりと読み継がれていく書籍を手がけてみたいと思うようになり、フィクション、中でも児童書をやりたいと希望を出して、児童局に移りました。そして最初児童図書第一出版部で、単行本やYAシリーズを担当して、去年から第二出版部で「青い鳥文庫」をメインに作っています。

佐川 偕成社の佐川知子です。よろしく願います。生まれは、一九八四年です。新卒で入ったので、六年め、今二八歳です。出版社で働きたいと思ったのは、小さい頃から本が好きだったというのもあって、偕成社で出している上橋菜穂子さんの『精霊の守り人』が好きで、就職活動して拾ってもらったという感じです。

西山 入りたいところに入れたんですね。何歳くらいで読んでたことになるのでしょうか、「守り人」。